緊急輸血の現状

◎柴田 早紀[1)]、大塚 那奈[1)]、石山 裕子[1)]、奈良崎 正俊[1)]
山形大学医学部附属病院[1)]

【はじめに】危機的出血が発生した場合には，救命を第一にした対応が求められる．救命のために血液型不明者または不確定者に対しては，血液型が確定するまで，O 型赤血球液（RBC），AB 型新鮮凍結血漿（FFP），血小板濃厚液（PC）を緊急輸血することが「危機的出血への対応ガイドライン」に示されている．当院に救急搬送され，危機的出血に対して O 型 RBC，AB 型 FFP の緊急輸血依頼があった症例を検討した．【対象･方法】対象は 2018 年 5 月～2019 年 4 月までの 1 年間に，危機的出血に対して O 型 RBC，AB 型 FFP の緊急輸血依頼があった 15 例．各症例について，診療科，疾患名・臨床診断，血液型検査歴，輸血依頼を受けてから血液製剤を払い出すまでにかかった時間，血液製剤の依頼単位数を検討した．【結果】症例の内訳は出産後出血：5 例，外傷：8 例，消化管出血：1 例，その他：1 例であった．15 例のうち，13 例は当院受診歴がなく血液型不明であり，他の 2 例は当院での血液型検査が 1 回のみで確定されておらず，O 型 RBC，AB 型 FFP の緊急輸血依頼となった．血液製剤を払い出すまでにかかった時間は 3～13 分（平均 7.7 分）であった．血液製剤の依頼単位数は，O 型 RBC：2～6 単位，AB 型 FFP：2～10 単位であった．血液型確定後は，患者血液型製剤を払い出した．【考察】時間外では非輸血専従技師が 1 人で対応することもある．症例ごとに重症度，当院までの患者搬送時間は異なっている．そこで，救急部医師からの事前連絡をいただくことが重要となる．患者が当院に到着する前に O 型 RBC，AB 型 FFP の依頼を受け，余裕をもって救急部に搬送しておくことができる．さらに，血液型検査用試薬の準備，紹介患者の場合では紹介元医療機関より血液型，輸血歴の情報収集も可能となる．これらの対応を徹底することにより血液製剤を払い出すまでにかかる時間のばらつきがなくなると考えられる．また，AB 型 FFP10 単位の依頼があった 2 例において，1 例は全て使用せず返納となり，もう 1 例は 4 単位のみ使用し 6 単位は支給不要となった．O 型 RBC，AB 型 FFP は患者血液型製剤に変更するまでの一時的なものであり，4～6 単位の依頼が最適であることを周知していきたい．　　輸血･細胞治療部　628-5715